第 2011-10 号

恵みと真理のニュース

2011 年 12 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　珍しい病気を治して下さって感謝します。

私は偶像崇拝が日常のように行っているある島の町で育てられました。1987年4月、友達の紹介で今の旦那に出会って結婚しました。結婚後、旦那は自分に合う仕事を見つけるためにしょっちゅう移職をしていたから、家庭は経済的にとても大変でした。それで、私は二人の子どもたちを育てるため、しかたなく在宅業務を始めました。子どもたちの面倒をみながら、一日ずっと働きながら生活しました。
旦那の職場のためにアンヤン(韓国の地名)へ引っ越ししました。隣に住んでいた人は恵みと真理の教会の首席区域長でしたが、家を訪ねて来て伝道をしました。最初は断って、なんの関心もありませんでした。ある日、首席区域長は、私のために祈ると言って、なにも分からない私は、祈ってもらいました。首席区域長は愛と祝福が溢れる祈りをしてくれました。今まで親にも聞いたことのない愛と祝福の言葉が、私の心の奥まで沁み込んできました。その瞬間、冷たかった私の心は温かくなりました。そこから、この人と一緒に教会に行こうと、心が変わりました。後で聞いた話によると、首席区域長は私が引っ越しに来る前から、新しく引っ越しして来る人にために祈っていたことがわかりました。2年間の粘り強い首席区域長の勧めで、私は1995年の春、、初めて恵みと真理教会で礼拝を捧げました。メッセージの御言葉の深い意味はまだわかりませんでしたが、心に平安が訪れてきました。
礼拝に参加する回数が増えつづ、御言葉が私の耳に入ってきました。その中でも、特に私の心に残る御言葉がありました。“わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。”（出エジプト記20；6）富んだ生活ができなかったから、子どもたちを豊かに支えることができませんでした。それで、いつも申し訳ない気持ちでした。しかし、イエス様をよく信じれば、子どもたちが祝福を受けると書いてあったので、私は神様を信じることにそれ以上の迷いはありませんでした。私が子どもたちにできることは本当にありませんでしたので、これから神様に頼ることを決めました。そして子どもたちにも頑張って神様の御言葉を学ぶように勧めました。ありがたいことに、子どもたちは教会学校で少しずつ神様の御言葉を学びながら、よく育ててくれました。今、二人の子どもたちは教会学校の先生として奉仕をしています。神様が子どもたちに関わって下さり霊肉共に祝福して下さいました。これからも、子どもたちの道を開いて下さり、導いて下さること信じて感謝の祈りを捧げます。
私は結婚初期から、疲れてたりすると、口の中に炎症ができましたが、ただ‘仕事のせいたろう。’と思いました。しかしある日、口の中の潰瘍が他のところまで移っていて足に半点ができていることがわかりました。さらに、寒気がひどくて熱がでました。病院に行ったらすぐベチェード病だと診断されました。免疫力がないときかかりやすくなる病気でとても珍しい病気だと診断されました。病気が進むと、全ての臓器に潰瘍ができてその後からは白血病まで進行する可能性のある病気でした。医者が診断したとおり、時間が経つことによって他の臓器に潰瘍が移っていました。口の中はもちろん、のどまで潰瘍ができました。それで食べたり、飲み込んだりすることさえできませんでした。体はどんどん弱くなって救急室にもよく運ばれたりしました。普段、15万から30万ぐらいになる血小板数値が2万以下に落ちていましました。病院で救急治療をしてもらって、もっと大きい病院に行って、骨髄検査を受けることを勧めてくれました。そのまま、大きい病院に行って検査をしました。その結果、白血病へ進行する直前の段階に入っていることがわかりました。もう、私の体は自ら骨髄を作ることができないため、骨髄移植をしないといけない状態でした。当時、子どもたちはまだ小さかったため、兄弟たちと話し合って、二番目の弟が骨髄を移植してくれると言ってきました。しかし、手術費用がとても高くて、医療保険公団に助けを求めましたが、できませんという返事だけでした。手術を受けるまで約1年間、日にちを伸ばしながらお金をつくっていました。しかし2008年、政府が珍しい病気をもっている難治性患者への特例制度を発表しました。そのお蔭で手術費の90%を援助してもらうことができるようになりました。それで2008年7月30日、弟から骨髄を移植してもらって手術をしました。その後、28日で退院するぐらい回復がとても早かったです。
2008年10月から、主日礼拝に参加することができました。とても嬉しくて感激しました。6ヶ月後からはすべての礼拝に参加できるようになりました。手術後1年間は免疫力が整えてないため、気をつけないといけない状態でしたが、神様の恵みのお蔭で、早く正常どおりに回復してきました。その後、区域礼拝も捧げることができました。
骨髄移植も無事に終わったので回復は順調でした。神様に感謝しながら喜びをもって礼拝生活をすることができました。そして2011年9月21日、首席区域長に任命されました。
今までの人生の中で、いつも共にして下さった神様に感謝します。何よりも珍しい病気を治して下さって、新しい人生を歩むようにして下さった恵みに、とても感謝しています。頑張って礼拝生活をしながら、与えて下さった首席区域長としてまじめにやっていきます。

［信仰コラム］　最上最高の渇望

“私は、キリストとその復活の力を知り、またキリストの苦しみにあずかることも知って、キリストの死と同じ状態になり、どうにかして、死者の中からの復活に達したいのです。”（ピリピの人への手紙3：10-11）

人の人格と人生の内容、そして未来は、その人が普段求めていることと深く関わっています。彼が求めていることが肉的なことと物質的なことだけでしたら、動物的な人生になるのです。しかし、精神的なことをいつも求めながら生きていく人でしたら、高尚な人格と人生になるのです。また、霊的なことが多くなると神霊な人生になります。霊的なこととは、イエスキリストによることを意味しています。イエスキリストを信じると、その日からは、前に知らなかったいろんな神霊なことを求めるようになり、その種類と大きさは信仰の深さと比例するようになります。使徒パオル自身が、強く求めることについて披瀝した、本文の御言葉を通して私たちはどうなのか、点検してみます。
使徒パオルはキリストをわかろうとしました。しかし、パオルはユダヤ教を熱心に信じていました。また、彼は聖書学者でありましたが、キリストの実状については無知でした。それで彼は、ナザレイエスをメシアだと信じ、それに従っている人々に対して、一時憤激しました。さらに、パオルは先頭になって彼らを弾圧し教会を迫害しました。しかし、復活したイエス様と出会い、大きな衝撃を受けました。回心した後から、もっとイエスキリストをわかるうと強く願いました。誰もイエスキリストに対する知識について、その長さ、広さ、深さ、高さを測量することはできません。わかっていればわかるほど、どんどん広くなり多くなる、まるで鉱山のようにわかっていくほど、その恵みと愛の奇跡に驚き、感激するようになります。そして、このようなことを伝えなければならない衝動を感じます。
使徒パオルは、キリストの復活の権能をわかろうと、強く求めました。第一、キリストの復活の権能は、彼が話した御言葉の信実さの中に圧倒的に証明されています。イエス様の御言葉は小さな間違えもなく、記録されている通りに成し遂げられています。特に、誰も信じられなかった復活に対する御言葉までもその通りに成就しました。これで、彼の御言葉は、記録されているまま、成し遂げられていることが確証されました。第二、私たちの罪が成功的に、カンペキに購えられたこまた、キリストを信じるすべての者が義となったことを証明しています。第三、イエス様を信じる者は復活することを証明しています。これは復活の権能です。使徒パオルは、キリストの苦難に参加することの意味をわかろうとしました。イエス様の苦難に参加することは、彼の死を見習って、毎日自分の十字架を背負い、死を経験することです。イエス様が背負った十字架は、万民の罪を購うために背負った十字架であります。私たち一人一人が背負うべきの十字架は、神様の義に反する、自我を釘つけて殺すための十字架であります。そして、イエス様の苦難に参加することとは、イエス様が命じたとおり、福音を伝えるために受ける苦難を指しています。この苦難に一緒に参加することは、とても大きな得権です。このような渇望は聖なる祝福の渇望であり、神様が与えて下さる栄光が約束されています。
使徒パオルは死んだ者の中で復活に届くことを強く求めていました。死に対して嫌がったり、死による別れを悲しむ人々にとって、最大の良いお知らせは復活に対する約束であります。私たちがこの世の中に暮らしている中、どんな状況に落ちいても義人の復活、命に復活、最初の復活に参加することで、誰も何もそれ以上、うらやましいことはありません。そのために使徒パオルは、自分が強く求めたことを強烈に披瀝したのです。
キリストの中にいる者がだけがもつ、このような求めと渇望は、彼の人格と人生と永遠な明日に、大きな影響を及ぼす最高の求め、渇望であります。このような求めが、いつもみなさんにありますようにお願い致します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

聖書に啓示され地獄

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

聖書：マタイによる福音書10章28節

聖書は、死の向こう側の住まいについての様々な用語が使われています。神の国、楽園、天国、新エルサレム、地獄、底知れぬ所、火の池という用語が記されています。
これらの用語を十分にして、明確にすべてを理解し、説明するのは困難です。イエスは言われたの金持ちとラザロの話で、陰部には悪人が住む苦しみの場所として、楽園は、正しい者が宿る安らぎと慰めの家所と呼ばれています。肉体を離れた魂は、天国と地獄、いずれにして所に行くようになると聖書は言っております。天国と地獄は、来世を言ういくつかの用語のための包括性を持つ用語とすることができます。先週日曜日には、天について説明しました。今日は地獄について考えてみましょう。

第一、地獄が実在することをどのように知ることができるかを考えてみましょう。

聖書を知らない場合、または、信じていない人であっても、漠然とではあるが、死の向こう側に罰の場所である地獄の知識は、あくまで聖書に基づいたものである必要があります。聖書を離れて自分自身や他の人の体験に基づいたもので、信仰生いわくに肯定的刺激と少しの助けになるとしても信憑性は保証されません。聖書は永遠の刑罰と地獄についての記録された言葉がたくさんあります。テサルロニカ手紙第二 1 章 8 節と 9 節に"神を知らない人たちと私たちの主イエスキリストの福音に従わない人々に罰をくださるであろう、この人たちは、週の顔と彼の力の栄光を抜きにして永遠の滅びの刑罰を受けるだろう"したのされます。ヨハネの黙示録 20 章 15 節には"誰でもいのちの書に記録されていない者は、火の池に投げることになる"と言っていました。イエス御自身言われた、"体は殺しても魂は充分に殺すことができない人を恐れずに、体と魂を充分に地獄に滅ぼす者を怖がってせよ"（マタイ 10:28）て、人が地獄の実在を信じないで否定しても地獄を無くすことはできません。まだ地獄の火は燃えています。まるで自分は、自然法則を認めないと叫んでも、まだ、自然法則を抜け出すことはできないのと同じです。地獄は実在している永遠の刑罰の場所です。

第二、聖書に明らかにされた地獄の実像を見てみましょう。

地獄は、人が死んだ後に罰受ける住まいのいくつかの名称を総括する名称とすることができます。聖書には、死んだ後に罰れる住まいには多くの名称が記録されています。
"陰部"があります。国語聖書に"陰部"に翻訳された言葉は、聖書の原語では、旧約聖書では"スオル"であり、新約聖書では"ハデス"です。
"スオル"にはいくつかの概念が含まれています。
死の状態や身体と魂の分離状態を指している場合があります（ヨブ 14:13,1417:13,14 詩篇 89:48 号 13:14）単純に、墓を意味する場合があります。例えば、ヤコブがその愛する息子ヨセフが野生動物に食われて死んだの行を知って嘆息しながら、自分も"悲しくて泣きながら陰府に降りであろう"と語っています（創世記 37:35、44:31）、あるいは悪人を処罰するための場所を指す場合があります。詩篇 10 篇 17 節に、"悪人が陰部に入るよ、神を忘れてしまった国々がそのようになるだろう"しています。ヘブライ語聖書の"スオル"をギリシャ語の翻訳、私の 70 の駅では、"ハデス"に翻訳しました。ギリシヤ語で記録された新約聖書でも、"ハデス"という単語を使用しています。
"ハデス"も、死の状態を指す場合があります（計 6:8、20:14）。墓を指す場合があります。（行：2:27,31）。悪人たちが死んで処罰されるところを意味します。イエスは言われた金持ちとラザロ類推で金持ちが入った痛みの住まいが、"ハデス"すなわち陰部です。"地獄"があります。これは、ギリシヤ語で"ゲヘンナ"で、悪人たちが入って永遠の刑罰の場所を指しています（マタイ 5:22、23:33）。エスニムは地獄を指してギリシヤ語で"ゲヘンナ"という言葉を用いられました。
"火の池"あるいは"火と硫黄できない"があります。これは、ヨハネの黙示録 19 章、20 章、21 章に記録されています。黙示録 20 章 10 節以下のように記録されています。"また、私達を惑わす悪魔は火と硫黄の池に投げ込まれそこには、獣とにせ預言者もあり、世々限りなく昼も夜も苦しみを受けるから、また、私は大きな白い御座とその上に座っておられる者をみると、地と天が、その前に避けて行ったことなかったよまた、わたしは死者がムロン大小、その御座の前に立った本が張ってあり、別の本を張っているのでとすぐに命の書だと、死者が自分の行為に応じ、この書物に記録されるように審判を受けると海はその中で死者を出して、また死と陰府も火の池に投げ込まこれは第二の死すぐに火の池だと誰もが命の書に記録されていない者は、火の池に投げ込ま"（ヨハネ 20:10～15）、火と硫黄の釘は救われていない人たちだけではなく、悪魔とその使いたちが入ることになる刑罰の場所です。死亡や猫にも火の池に入って行くことになります。。地獄の都合がどうなって調べてみましょう。地獄では苦しんでいるところです。陰部（地獄）の豊富な人がアブラハムに懇願する"ラザロを私の父の家に遣わしてください。私の兄弟五人がいるので私達に証拠にして、私達の方が苦しむところに来ないようにください"（ルカ 16:27、28）しました。地獄は、神の愛を受けることができない場所です。誰でも地獄に落ちる、その瞬間から、望みは永遠に消えてしまいます。

第三、地獄はどのような人が入ることになるかを調べてみましょう。

神の御言葉を信頼せず、不従順な者たちが入ることになります。神様が最後の日に、万民の中で、彼の選ばれた人々が救いを得るようにするためにひとり子を遣わされた、わたしたちの罪の贖いにされました。そして、誰でもイエスキリストを信じれば、寛解されて救いを得るようにしてくださった受けました。ノアが箱舟をイェビハン当時は箱舟に入っているかではないかとすることで、神様の御言葉に対する信仰と従順のかどうかが決まる千切り。"主イエスを信じなさい、そうすれば救われる"しています。人のすべての罪はイエスキリストを信じて赦しを受けることができますので、人々が地獄に入ることになるのは、イエスキリストを信じていなかったが一つの理由によるものです。これは、神様の愛をミョルシハンものであり、イエスキリストを信じれば救われるという神の言葉ㅅスムエに対する不信感と不従順です。地獄には、どのような人が入ることになるのかというという質問に答えは言うまでもなくなく、イエスキリストを信じない人が入ったと言うことです。これは、神様が定められた法律です。
イエスキリスト彼が再臨し、栄光の御座に着いて、すべての民族が、その前に集めて羊飼いの量の塩素を罰するかのように、それぞれ分別して量その右にある山羊は、その左側に置いて審判することだと行っている。そして左側にいる人々に"呪いを受けた人たちが私を離れて、悪魔とその死者たちのためにイェビハン永遠の火にはいってしまえ"（マタイ 25:41）と審判することを言われました。この御言葉を通して見ると地獄とは、元の人々のために準備されたところではないことがわかります。人間が堕落して悪魔の勢力下の置かれているため、悪魔とその使者たちのために予備され、地獄に入ることになったのです。神は人々が地獄に入らないことを望んでおられます。こうして私たちを罪と悪魔と地獄の罰から救うためにイエスキリストを送りましたです。"神はこの世を愛し、神のひとり子てくださったので、これは彼を信じる者がひとりとして滅びることなく永遠の命を得るようにしようとする方法だからである、神が御子を世に遣わされたのは、世の中を審判するのではなく、私とゆえ世界が救われるためである私に信じる者はの審判を受けれないであろう信じない者は神のひとり子の御名を信じなかったので、すでに審判を受けたものである"（ヨハネ 3:16～18）誰でも地獄に入らない場合は、このような救いの福音を耳を傾けて聞いて従う必要があります。人が死んだ後、地獄に入るならばこの世に生まれた日は呪いの日になるでしょう。
地獄が実際に存在するのと地獄を知っていれば、福音を広めることよりも至急で善良ことはないという事実を悟るようになります。天国の民となり、この地に住んでいる聖徒の皆さんは、地獄に向かって行く人々が振り返って、天国に向かって進むように熱心に出して福音を宣お願いいたします。